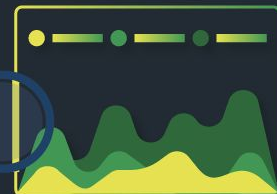
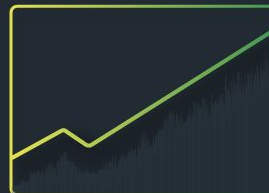
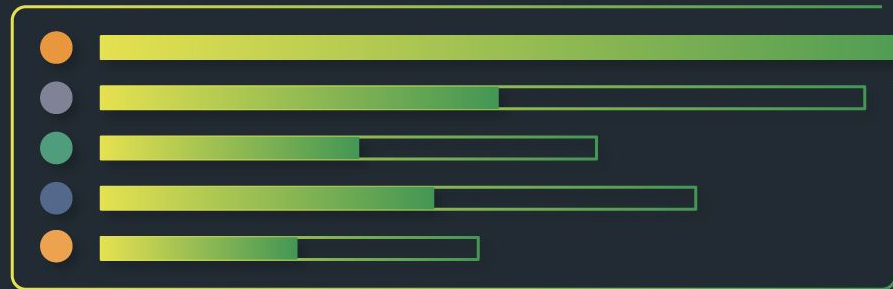




CoinGecko

2020年10月

月刊仮想通貨レポート



マーケット時価総額は、今年最高値の3,780億ドルを更新

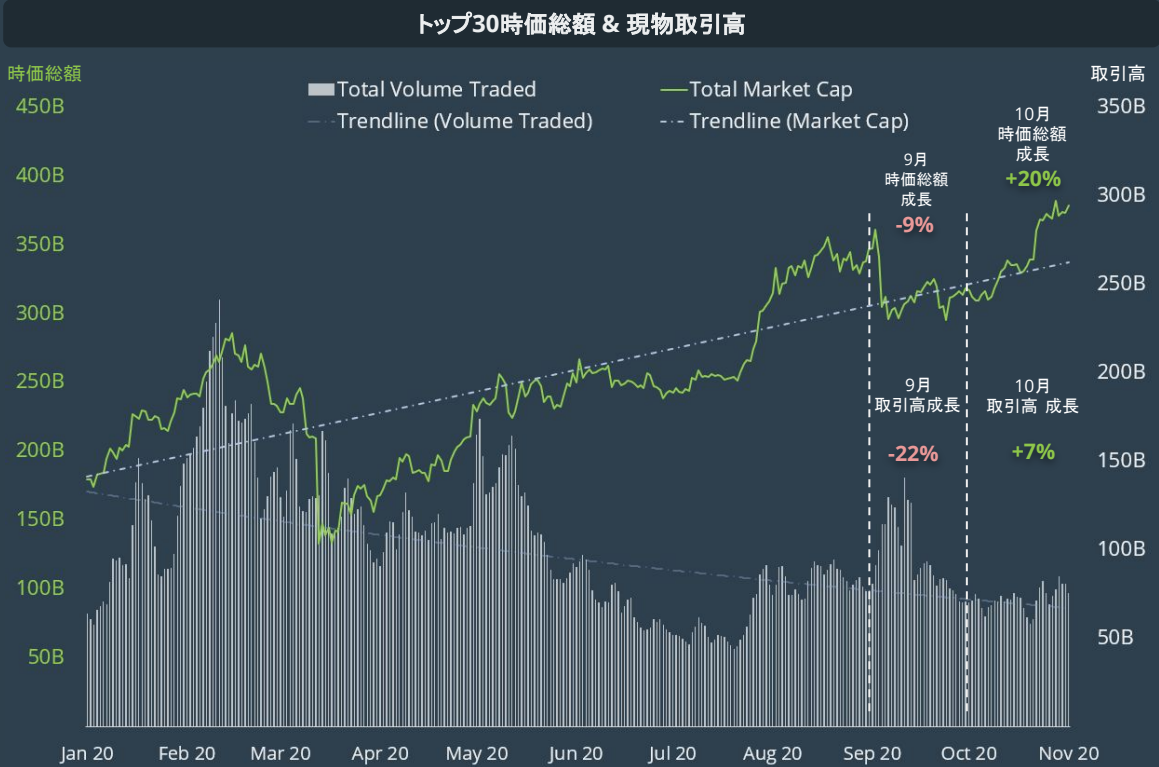
+20%
 トップ30通貨 時価総額
 2020年10月

9月にわずかな後退を見せたものの、10月のトップ30通貨の時価総額は**20%**上昇し、昨年の年間最高値の**3,780億ドル**を更新した。

取引高は低調(+7%)な回復を見せ、8月頃の平均的な取引量と同じ水準にまで戻った。

今回の上昇は、事業戦略として**ビットコインの採用を決めた大手企業**(Paypal, Square, MicroStrategy, DBS Bank)の**急増**に強く影響を受けていると考えられる。

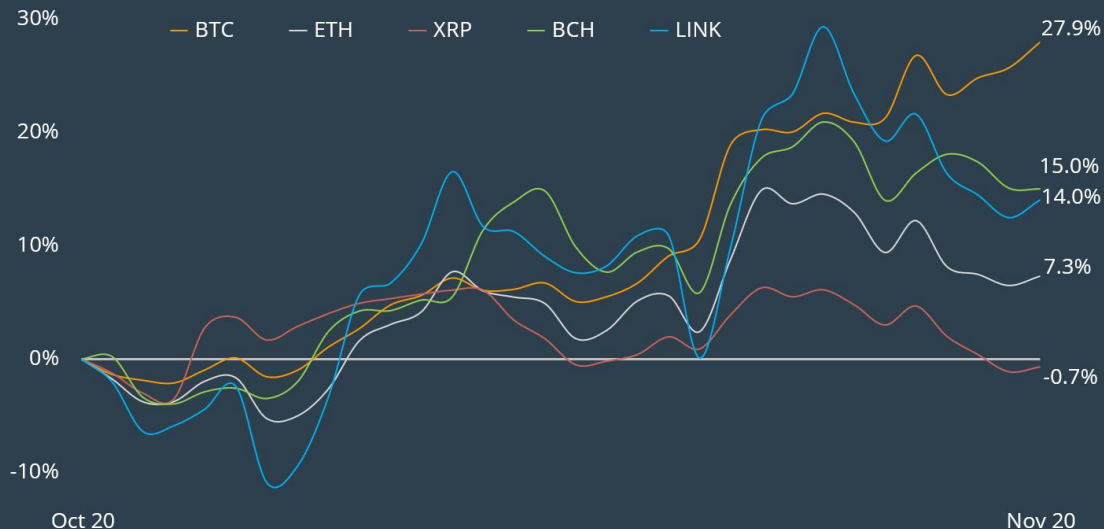
しかし現在、時価総額に対して比較的取引高は低いままであることから、**2020年11月の米大統領選前後に、突然ボラティリティが上昇する可能性があるだろう。**



トップ5 仮想通貨リターン

ビットコインが28%成長で市場を牽引

トップ5仮想通貨価格リターン



DeFiが牽引したETHの急騰が収まったことで、ビットコインは持ち直し始めている。ビットコインのアダプション関連ニュース (Paypal、MicroStrategy、Square) も市場心理をポジティブに後押しした。

*Tetherを除外したトップ5通貨

+11%

*トップ5 通貨 平均リターン
2020年10月


価格リターン 2020年10月


(vs. 2020年9月)

 **+27.9%**
(-7.7%)

 **+7.3%**
(-17.5%)

 **-0.7%**
(-14.5%)

 **+15.0%**
(-17.2%)

 **+14.0%**
(-37.1%)

トップ30仮想通貨マーケットシェア

ビットコインのシェアは4.5%上昇し、トップ30通貨の中で唯一シェアを伸ばした。

マーケットシェア 2020年10月

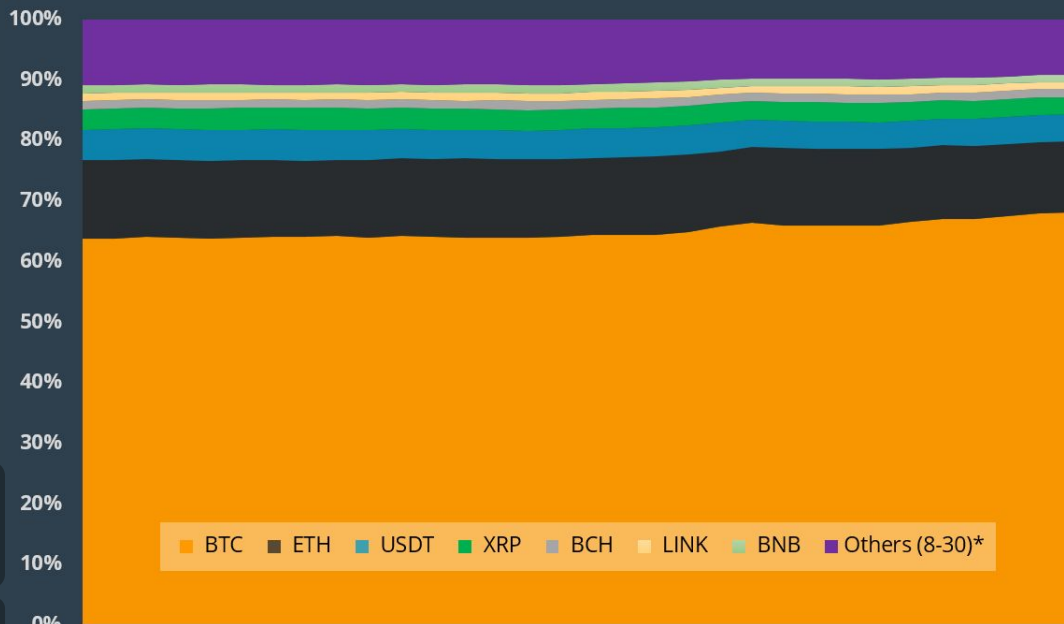
(vs. 2020年9月 市場シェア)



ビットコインは、今月シェアを伸ばした唯一の通貨だった。具体的には4.5%上昇し66.9%までシェアを拡大させた。最もシェアを失ったのはEthereumだった(1.3%)

これは投資家がポートフォリオをビットコイン重視に戻したことによる、**アルトサイクル減退**のシグナルだと言えるかもしれない。

トップ30通貨 マーケットシェアチャート



Oct 20

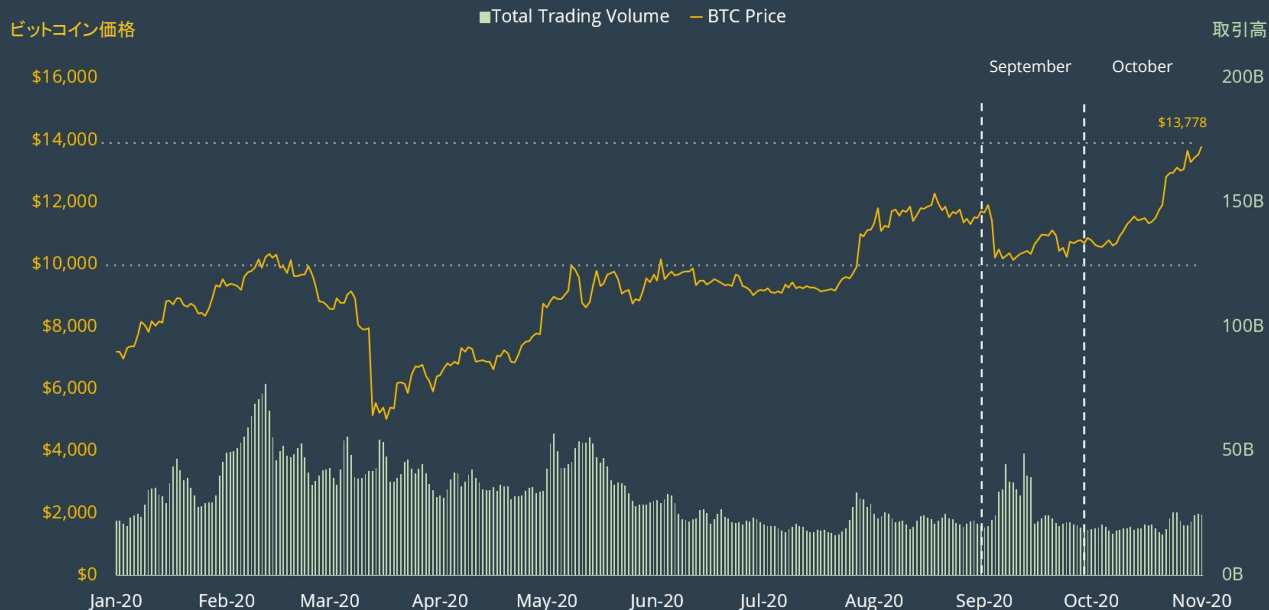
Nov 20

*Others(8 - 30)は、2020年10月30日時点での、CoinGeckoの8 - 30位の通貨の時価総額を参照している。

ビットコイン価格 vs. 取引高

ビットコイン価格は28%上昇し、ここ数年の最高値であった13,778ドルを更新した。

ビットコイン価格 & 取引高



ビットコイン価格は、**28%上昇**で10月を終え、近年の最高値である13,778ドルを更新した。これは2017の最高値の19,665ドルから**43%**低い価格である。

ビットコインの**取引高は22%上昇**し、今年2~3月の暴落以降、**最も良いパフォーマンス**を見せた。

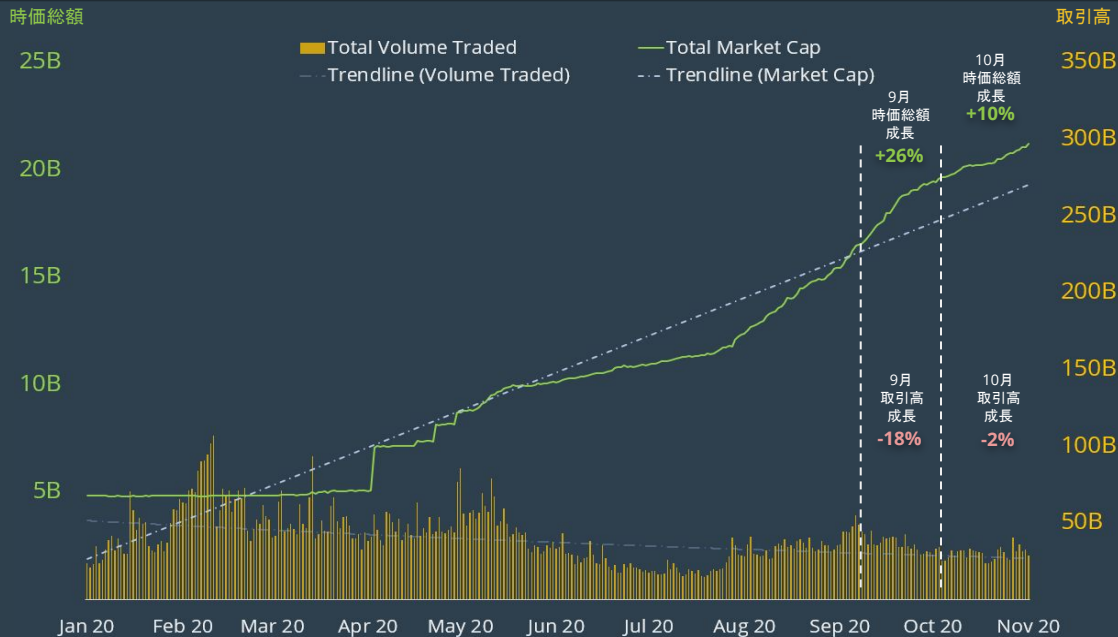
2020年10月31日まで、ビットコインの価格は97日間連続で1万ドル以上を維持し続けたが、これは史上最長記録である。

	Price Return	Trading Volume
Jan	29%	52%
Feb	-8%	-39%
Mar	-25%	-6%
Apr	34%	-12%
May	10%	-12%
Jun	10%	-58%
Jul		13%
Aug	3%	-6%
Sep	-8%	-12%
Oct	28%	22%

トップ5ステーブルコイン取引高

ステーブルコインの供給量は+10%とわずかに増加し220億ドルに達した。

トップ5ステーブルコイン概観 2020年10月



DeFiプロトコルのイールド(利回り)低下の影響を受け、10月のステーブルコイン市場の成長率は9月と比較すると低いもの(それぞれ +10% 及び +26%)だった。

+\$19億

トップ5ステーブルコイン
時価総額 2020年10月

2020年10月供給量
(vs 2020年9月)



\$16.5B

USDT +\$1.1B (+7%)



\$2.9B

USDC +\$403M (+16%)



\$935.0M

DAI +\$30M (+3%)



\$710.3M

BUSD +\$207M (+41%)



\$430.1M

PAX +\$136M (+46%)

DeFi (分散型金融)

DeFiの夏は2ヶ月間にわたるDeFiトークン価格の下落と同時に終わりを迎え、一方でビットコインは急上昇し、他全ての通貨を凌駕するパフォーマンスを見せている。

トップ5 DeFi トークン価格リターン - 2020年 6~10月

	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	YTD
Top-10 DeFi Tokens						
LINK	10%	70%	101%	-37%	14%	91%
MKR	-1%	22%	22%	-16%	-9%	20%
UNI	-	-	-	21%	-46%	-34%
UMA	35%	120%	432%	-60%	-24%	2125%
SNX	146%	100%	90%	-36%	-36%	150%
COMP	175%	-38%	81%	-45%	-32%	15%
AAVE	-	-	-	-	-47%	-47%
LEND *	54%	131%	143%	-28%	-44%	250%
YFI	-	-	749%	-32%	-56%	1226%
0x	6%	14%	61%	-34%	-21%	79%
REN	60%	8%	220%	-53%	20%	824%
Top-5 Cryptocurrencies						
BTC	-3%	24%	3%	-8%	28%	91%
ETH	-3%	53%	26%	-17%	7%	199%
XRP	-14%	48%	9%	-15%	-1%	24%
BCH	-7%	35%	-9%	-17%	15%	28%
LINK	10%	70%	101%	-37%	14%	537%

10月は**ビットコイン**が大いに好まれ、**28%**の価格リターンを記録した。一方で、DeFiトークンは大きく下落した。

YFI は、およそ**60%**下落し、**最低のパフォーマンス**を見せた。とはいえ、ローンチ時の始値から考えると上昇率は**1,226%**である。

UNIとAAVEも10月に**およそ50%**ほど下落した。UMAも24%下落したが、年間では**2,125%**の上昇であり、例外的な高パフォーマンスである。

全てのDeFiトークンの中で、10月は唯一LINKとRENだけが、それぞれ**14%**及び**20%**上昇し、プラスリターンを出した。

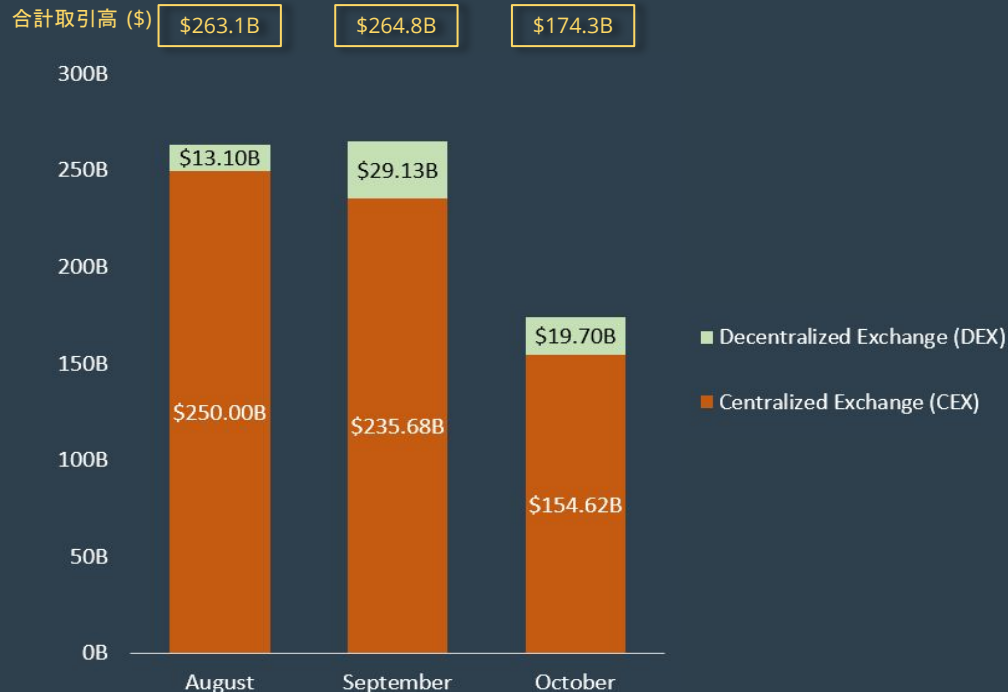
2020年11月1日時点の、トップ10DeFiトークン。

* LENDは、2020年10月の第二週より、100LEND = 1AAVEのレートでAAVEへとマイグレートが行われている。

トップ7 仮想通貨取引所

CEX(中央集権型取引所)及びDEXの合計取引高は34%下落した。

トップ7 CEX + DEX取引高 2020年 8 ~ 10月



-34.2%
合計取引高成長率
2020年10月

10月、トップ7のCEX及びDEX全体の取引高は、**905億ドル減少**した。BinanceとHuobiが**損失の78%**を占めた。DEXの減少率はCEXが**34%**だったのに対し、**32%**とわずかに小さかった。

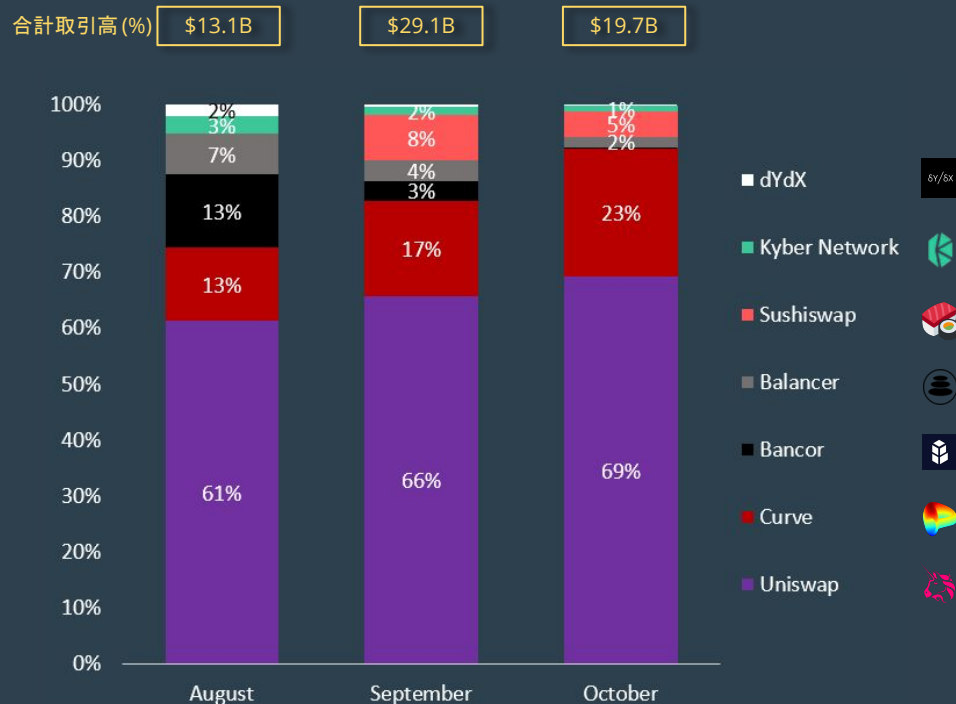
DEXの取引高下落は、**DeFiイールド(利回り)報酬の減少**が主な要因だと思われる。一方、CEXの下落は、**パンデミックの悪化や米大統領選など、世界的なマクロ経済の不確実性**を反映したものであった。

市場全体の取引高が減少したにもかかわらず、10月のDEXのCEXに対する取引高シェアは**9%から12%に上昇**している。

トップ7 DEX(分散型取引所)

Uniswapは取引高下落にも関わらず、シェアを増加させ続けている。一方でCurveも堅調。

トップ6DEXの取引高シェア2020年8 - 10月



2020年11月1日時点でのトップ7のDEX - Uniswap, Curve, Bancor, Balancer, Sushiswap, Kyber Network, dYdX

-\$94億

トップ7DEXの取引高成長率
2020年10月

10月のDEXの取引高は94億ドル(-32%)減少した。すべての取引所が、先月の指数関数的な成長(160億ドル(+122%))を維持することができなかった。

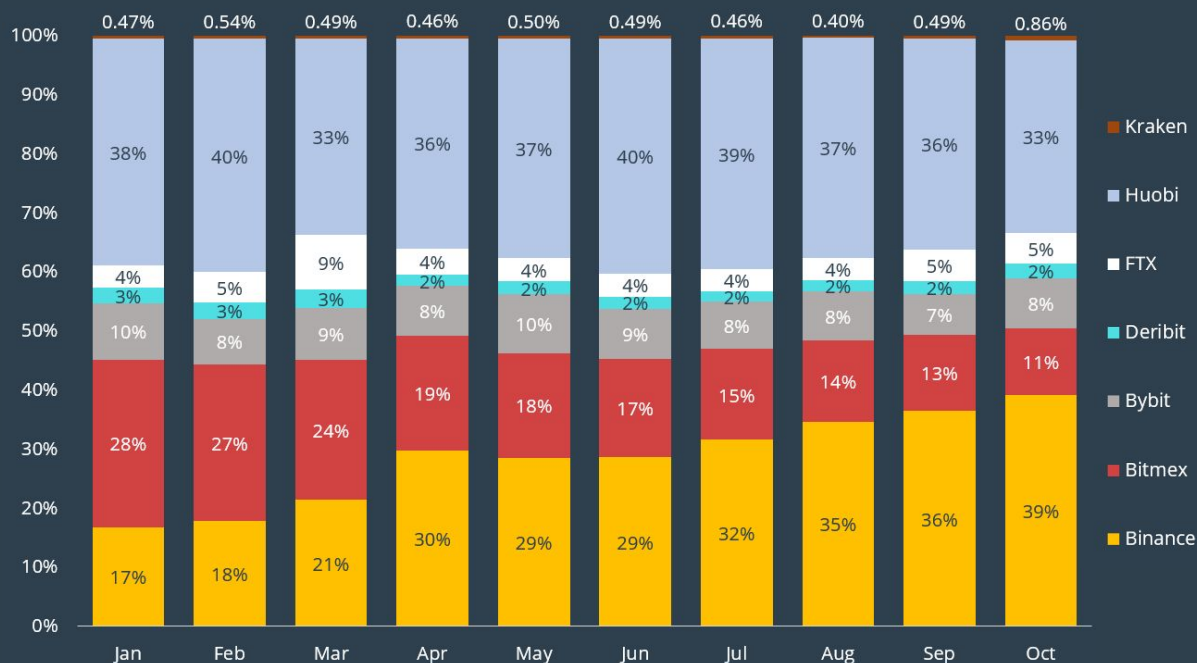
Uniswapは最も取引高を失い、合計損失額は55億ドル(59%減)に上った。にもかかわらず、DEX市場におけるUniswapのシェアは66%から69%に上昇している。

Curveの取引高は、400万ドル(-8%)とわずかな減少にとどまった。損失は他のDEXと比較して小さかったが、これはHarvestの資産流出に伴う大規模な取引高急増によって、損失が軽減されたためである可能性が高い。

これにより、Curveのシェアは8月の13%から10月には23%にまでリバウンドし、7月の水準にまで回復した。

BitMEXはBinance Futuresのシェア上昇の傍ら、徐々にシェアを奪われている

月間取引高シェア (%)



BitMEXのデリバティブ市場シェアは1月から半減した。10月のシェアは1月の28%から**11%にまで減少**している。

一方、Binanceの10月の市場シェアは**着実に上昇**しており、**全体の39%**に達している。

BitMEXのシェア縮小は、10月1日に公となったCFTCとDOJによるBitMEX及び同社創業者に対する民事・刑事告発が原因とされている。BitMEXの元CTOであるサミュエル・リードは逮捕された。

このニュースを受けて、BitMEXのユーザーは**プラットフォームから逃げ出し**、結果的に**約3億3,700万ドル**以上のBTCを流出した。

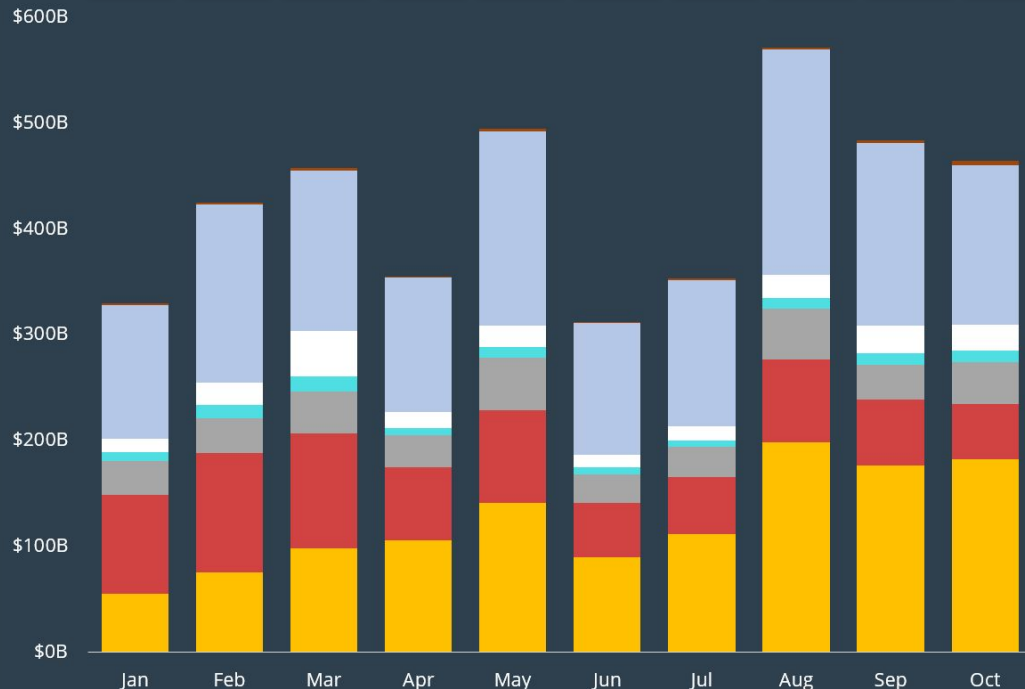
大多数のユーザーがBinanceやBybitに乗り換え、Binanceの市場支配力はさらに高まったと考えられている。

デリバティブ取引所 - 取引高

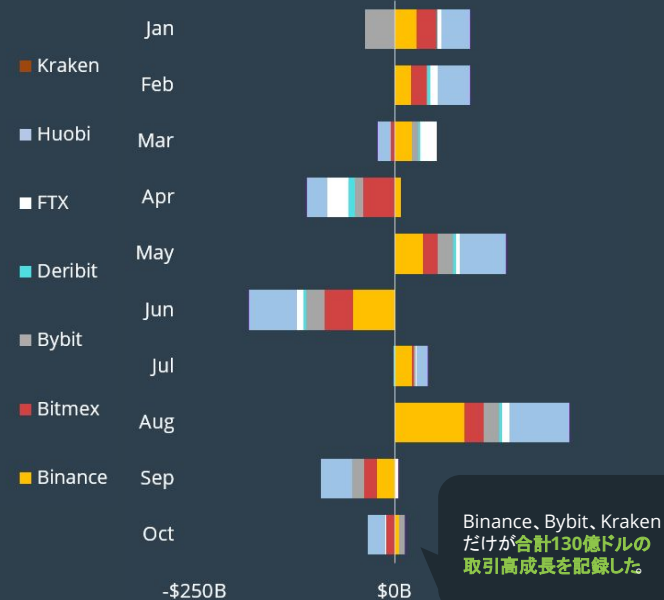
デリバティブ取引高は8月から徐々に減少し続けており、10月は4%下落に終わった

月間取引高 集計 - 2020年1 ~ 10月

合計取引高 (%) \$329B \$425B \$457B \$355B \$494B \$312B \$353B \$571B \$483B \$464B



月間取引高成長 (\$)



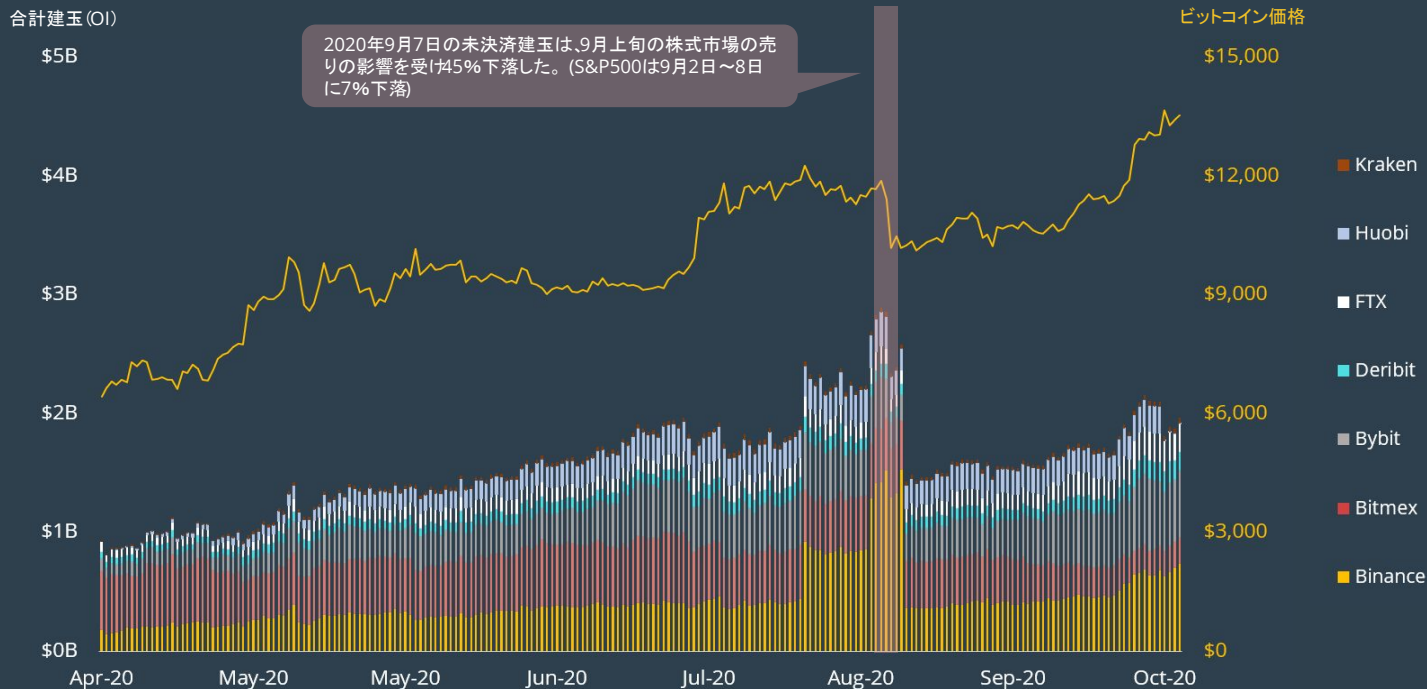
Binance、Bybit、Kraken
だけが合計130億ドルの
取引高成長を記録した

参照: CoinGecko。取引高のマーケットシェアは、トップ取引所のビットコイン無期限先物のペアデータに基づいて算出。

デリバティブ取引所 - 未決済建玉(OI)

ビットコインが上昇する中、BTC無期限先物の未決済建玉は20億ドルに達した

ビットコイン無期限先物 未決済建玉月間集計- 2020年1 ~ 10月



BTC無期限先物の日次合計建玉(OI)は10月31日時点で**8,700万ドル(+5%)増加**し、20億ドルに達した。

Binanceは、ビットコイン無期限先物の建玉の**大部分を占めている(7億3800万ドル)**。次いでBybitが**5億6,300万ドル**と続いている。

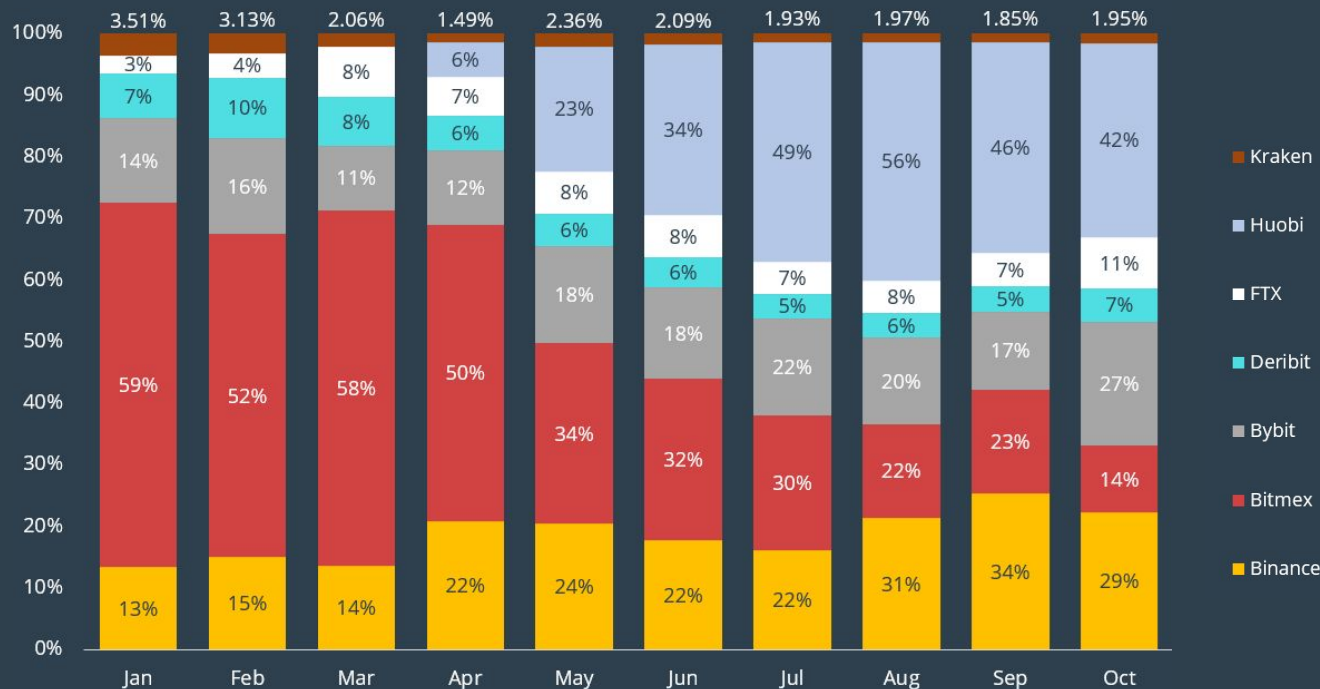
結果的に、9月7日の連日最大の下落から、建玉は**40%近く増加**している。

今回の建玉増加は、**ビットコインが14,000ドルまで急上昇し、新たに資金が流入**したことが要因だと考えられる。

デリバティブ取引所 - 未決済建玉 (未決済建玉)

BitMEXのシェアは収縮する一方、HuobiとBybit、Binanceのシェアは上昇した

ビットコイン無期限先物未決済建玉 マーケットシェア月間集計 - 2020年1～10月 (%)



BitMEXのビットコイン無期限先物の市場シェアは、毎月継続的に低下している。10月の市場シェアは**11%減少**し、現在のシェアは**14%**ほどとなっている。

この大幅下落の要因は、先日BitMex社が受けた告発にあり、**3億3700万ドル以上**のビットコインがプラットフォームから流出した。

10月、Bybitの市場シェアは**10%から27%**に上昇し、最もシェアを伸ばした取引所となった。

FTXは現在、ビットコイン無期限先物市場の**11%**を占有しており、同社にとって過去最高のシェアを誇っている。

参照: CoinGecko。未決済建玉のシェアは、トップ取引所のビットコイン無期限先物のペアデータに基づいて算出。

10月のニューカマー - BarnBridge

BarnBridgeは、イーロドファーミングに安定性をもたらすことを目的としている

BarnBridge (BOND)

BarnBridgeそれ自体は、**最初のトランシェ・イーロドプロトコル**である。初期のプロジェクトは、**ユーザーの好むリスク条件に合わせたリターンを提供する**ことを目的としている。

SMARTイーロド債はリスク耐性の高い固定金利の利回りを提供する一方で、**SMARTアルファ債**は様々なレベルの**資産価格ポジション**をトランシェに分割して提供する。

BarnBridgeの**イーロドファーミングプログラム**は10月19日に開始され、10月26日には**流動性プールのインセンティブ化**が行われた。

トークン価格は、BONDファーム化されたトークンが配布された最初の週に**180ドルに達した**が、その後は**45ドルまで下落している**。



仕組み (例. 70/30 SMARTイーロド債)

プール全体は複数の**リスクトランシェ**で構成される。プールでは、低リスクトランシェが先に固定リターン*を受け取り、その後高リスクトランシェに残りが分配される。損失はまず高リスクトランシェが負担する。以下では、2つのトランシェ(70%のシニアトランシェ(低リスク)と30%のジュニアトランシェ(高リスク)に分散された10,000 DAIローンを例に、2つのシナリオとそれぞれのリターンを計算している。

	シナリオ 1 +10% 利回り (+1,000 DAI)	シナリオ 2 +3% 利回り (+300 DAI)
2つのトランシェに分割された10,000 DAIローン		
70% (7,000 DAI) シニア(リスク低) トランシェ 5% 利回り (固定)	固定 5% APY +350 DAI	固定 5% APY +350 DAI
30% (3,000 DAI) ジュニア(リスク高) トランシェ 変動 利回り	残高 +650 DAI 実質 +21.7% APY	残高 -50 DAI 実質 -1.7% APY

利回りのリターンが高い**シナリオ 1**では、シニアトランシェ保有者は5%の固定利回りを得る。残高が多いと、ジュニアトランシェ保有者の実質利回りが高くなる。しかし、合計の支払い利回りが低い**シナリオ 2**では、上級トランシェ保有者に固定利回りを提供するため、ジュニアトランシェ保有者は金額を徴収される。この例では、ジュニアトランシェ保有者は損失を被ることになる。

*利回りは、変動金利でAave & Compoundなどの様々なレンディングプロトコルから発生する。

10月のニューカマー - ファイルコイン

最も注目 & 期待されているICOの一つ - どのようにして成り立っているのか？

ファイルコイン (FIL)



Filecoinは、2017年に2億5,000万ドル以上を調達しICOによってスタートした、InterPlanetary File System (IPFS) 上に構築された分散型ストレージブロックチェーンだ。

Filecoinは、iPFSのインセンティブレイヤーとして機能し、iPFS上のファイルの保存と検索を支援する。



時価総額

\$792M

2億ドルICO調達時の~4倍

完全希薄化後時価総額

\$570億

ETH (\$44B)を上回る

ファイルコイン \$240からの下落

-88.3%

最高値 \$240 以降

ファイルコイン価格は~\$240で取引されていた。しかし、日が進むにつれ、価格は60ドル前後まで下落し、10月中は30ドル前後で安定した。

値動きの需給要因を探る

Demand:

- 投資家による投機熱
- マイナーはマイニング効率を最大化するためFILをロックする必要がある
- ストレージ及び検索の際に FILが必要

Supply:

- マイニングリワード (報酬の75%が180日かけて配布される)
- チーム/プライベートセールトークンのアンロック (異なる [ベストタイミングスケジューリング](#))

これまでのファイルコイン:

1. 値動きに関する疑惑

テストネットトークンが取引所で売られているという疑惑が浮上 (FILトークンが市場に氾濫) し、Filecoin価格が240ドルから50ドルに暴落した理由と囁かれている。

2. マイナーの“卵が先か鶏が先か”問題

マイニングをフル稼働させるためには FILが必要だが、180日間の強制的なベストタイミングのせいでマイナーはすぐには大部分の FILを受け取ることができない。これを受けてプロトコルの改善が実施され、現在ではFIL報酬の25%はすぐに受け取ることができ、残りの 75%が180日間にわたってアンロックされる仕様となった。

*完全希薄化後時価総額とは、最大供給量における時価総額の理論上の時価総額を意味する。



フォローをよろしくお願いします！

